

(再開 午前10時50分)

## 議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 湯本行浩議員。

(「はい、議長。3番。」の声あり)

(3番 湯本行浩 議員 登壇)

### 1. 若者流出と働く場の不足を踏まえた施策について

#### 3番 湯本行浩 議員

それでは、議長から発言を許されましたので、通告に基づきまして2項目の質問に入らせていただきます。

まず1項目目です。「若者流出と働く場の不足を踏まえた施策について」です。

木島平村では人口減少が深刻な問題となっており、その背景には、高齢化や地域社会の閉鎖性、若い世代の流出、そして、子育て世代の経済的不安といった様々な要因が複雑に絡み合っていると思っています。特に若者や子育て世代が地元にとどまりにくい背景には、自分たちの希望に合った働き口が少ないことや賃金が低いことが影響している、世帯としての収入を上げることが難しい状況もあるかと思えます。

こうした現状を踏まえ、高齢化や地域の閉鎖性への対応、若い世代や子育て世代が定着しやすい環境づくり、また、地元での雇用機会の創出や賃金の底上げなど、地域全体の雇用環境の改善に向けて、村としてどのような施策を講じておられるか、3点お伺いします。

まず1点目としてお聞きしたいのは、地域の意思決定のあり方についてです。

高齢化と人口減少が進む中で、どうしても地域の意思決定においては、高齢世代の意見が中心になり、新しい考えがなかなか受け入れられにくくなってはいないでしょうか。また、そうした状況が移住してきた方々や若者世代との価値観の違いを生んでいたり、地域活動への参加のハードルになったりして、閉鎖的な雰囲気と感じられることが、新たな人材の流入や定着を妨げている面もあるのではないかと感じています。村として現状を把握しているか、お伺いいたします。

## 議長（勝山 正）

湯本総務課長。

### 総務課長（湯本寿男）

それでは、お答えいたします。「新しい考え方が受け入れにくいなど、地域の閉鎖性が新たな人材の流入を妨げているか」についてであります。

議員おっしゃるとおり、木島平村のような少子高齢化が顕著で、地域の担い手といわれる比較的若い人が少ない地域では、そういったこともあることは承知をしているところです。考え方の多様性や生活スタイルの多様性が認められてきたからこそ、世代の考え方の違いや環境の違いが価値観のずれとして、表に出るようになってきているのではないかと感じています。

ただ、最近は各地区で移住者の方も増えてきていることや、スマートフォンやソーシャルメディア（SNS）の普及により、情報が出やすい環境となっていることから、かつてよりだいぶ閉鎖性がなくなっているのではと感じております。

では、「村としてどのように現状を把握しているか」ということについては、地区づくり懇談会や各種団体の運営事務局としての場面で、また、地区での活動の中で、ご指摘のような課題については、実情を聞きながら把握しているところです。

第7次総合振興計画策定の際、令和4年度に村民アンケートを行っております。その中で、村外に転出したい理由の説明がありましたので、この回答がご指摘の新しい考え方が受け入れにくくなって

いる傾向や、地域の開放性や多様性の受入れが難しくなっているに該当するのではないかと思います。少しご紹介をいたします。

「村外に転出したい」理由の回答で、多い理由から申し上げます。

「買い物、病院など生活で不便だから」が69%、「職場・学校に通うのが不便だから」が32.4%です。その次に「村民の人間性が合わないから」「生活環境が合わないから」「地域に馴染めないから」と回答した人が、それぞれで29.6%となっております。年齢差による価値観のずれに直接関わりはないかもしれませんが、この辺がご指摘の内容とも言えると思っております。

また、自由記述の意見の中で、各団体や区における行事・会議など簡素化してほしいといった意見、土日の行事が多すぎる、わずらわしいなどといった意見もありました。

いずれにしても、村としてはどのような意見があるのかというところについては、あらゆる場面で把握していくことと考えております。

### 議長（勝山 正）

湯本議員。

### 3番 湯本行浩 議員

高齢化社会になって、分断ではなく、やはり融合です。やはり経験人生の経験豊かな方からいろいろな農作業にしても、いろいろな方を教える、教えていただけるという機会があると思っておりますので、そのような施策を考えていただきたい。

そこで、若者や移住者が地域活動に参加しやすいような仕組み、または支援体制はあるか、お聞きします。

### 議長（勝山 正）

湯本総務課長。

### 総務課長（湯本寿男）

「若者や移住者が地域に入りやすいような施策」ということでご質問をいただきました。

まず、元々木島平に生まれてここで育った若者につきましては、正直、学生・高校生を卒業してすぐに出られるパターンが結構多いわけですが、当然、村に住んでいる方もいらっしゃいますが、地域に入って、例えばお祭りですとか区の行事ですとか、参加していただいていると思います。

その中で当然、最初のご質問にもありましたように、年齢の差によるズレですとか、そういったものはあるということは承知しております。ただ、そういったご意見につきましては、先ほども申し上げたとおり、意見としてお聞きして、施策として実行できるものであれば実行していくという形でございます。

具体的なことを申し上げますと、消防団の活動についてですけれども、ある程度少子高齢化の中にありまして、地域で団員を確保するのが難しいという中にありまして、団員の定員の削減ですとか、負担の軽減というのも今行っております。

また、移住者の方につきましては、移住定住推進係の中で、各地区の状況をわかりやすくするペーパーみたいなものを配りまして、この地区はこういう地区だというようなところをわかりやすくお知らせをしているような状況はあります。

### 議長（勝山 正）

湯本議員。

### 3番 湯本行浩 議員

それでは、2点目としてお伺いしたいのは、観光・農産加工事業の将来性と、若者への魅力づけについてです。

6月議会での村長の答弁で「観光や農産物の加工といった事業が地域の特性に合っている」とのお話がありました。私もその見解には賛同いたします。

一方で、こうした事業の後継者がなかなか見つからない背景には、単に承継の仕組みがないということだけではなく、事業自体の収益性への不安や働き方としての魅力が貧しいといった問題もあるかと思えます。そのため、後継者を確保するための取組に加えて、これらの事業が若い世代にとってやってみたくて続けたいと思えるような、将来性や収益性を高めるような取組も必要ではないかと考えます。

これらの事業が若者世代にとって魅力あるもの、将来を見据えた取組も併せて検討しているかどうか、お伺いいたします。

### **議長（勝山 正）**

本山産業課長。

### **産業課長（本山 等）**

「事業承継」に関するご質問をいただきました。

ご指摘のとおり、後継者不足の背景には収益性や将来性への不安、さらには、働き方としての魅力といった要素が関係してくることも村として十分認識をしております。

事業承継については、6月議会でもお答えしたとおり、事業承継に対する不安を解消し、円滑に行われるための支援、個別相談会や事業承継セミナーを県・商工会・関係機関と連携して開催しております。この中で、収益性を高めるための方策や資金支援を含む多面的な支援を紹介しておりますので、まずは、商工会や村にご相談いただきたいと思います。

### **議長（勝山 正）**

湯本議員。

### **3番 湯本行浩 議員**

今、地場産業の後継者問題ということでお答えになったと思うんですけども、収益性の強化についての取組はありますか。

### **議長（勝山 正）**

本山産業課長。

### **産業課長（本山 等）**

「収益性の強化についての支援があるか」というご質問でございますが、先ほど申し上げました、商工会それから県等の関係機関で行っております相談会、この中で資金の支援も含めまして、専門家の派遣ですとか、収益性を高めるための支援も併せて行っておりますので、まずは、ご相談いただければと思います。

### **議長（勝山 正）**

湯本議員。

### **3番 湯本行浩 議員**

ちょっとしつこいかもしれませんが、収益性を高めるための施策、例えば販売促進、加工品開発、ブランド化支援というのはどういう取組をされているのでしょうか。資金面だけではなくて、ほかの施策というものはあるかどうかお伺いします。

**議長（勝山 正）**

本山産業課長。

**産業課長（本山 等）**

「ブランド化に対する取組」につきましては、村の支援といたしましては、ブランド化のための特産品を開発するための補助金を用意してございます。

県、商工会の方では、資金の提供もそうですけれども、繰り返しになりますが、専門家の派遣というものをやっております、その中で、マーケティングの勉強会みたいなものもございますし、そういったマーケティングの専門家を派遣する事業というのもございますので、そういったものを活用いただければと思います。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

経営に対する専門的なんですけれども、それぞれの分野、製造業であり商業であったりするその専門家を呼んだりするという支援体制の整備状況はいかがでしょう。例えば、お米を作るにしてもお年寄りの方から意見を聞いたり、専門的なことという意味です。

**議長（勝山 正）**

本山産業課長。

**産業課長（本山 等）**

今の農業関係の例をご指摘されましたけれども、農業分野につきましては、県の農業農村支援センターという組織がございます。そういった専門的な県の組織であったり、各分野の組織がございますので、それらが担うということになります。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

例えば農業になってしまいましたけれども、その他の業種でもやはり専門的支援体制というのを整備していただきたいと思います。

再質問として、地域資源を活用した新しいビジネスモデルや地場産業の高度化に向けた取組の予定はありますか。

**議長（勝山 正）**

本山産業課長。

**産業課長（本山 等）**

既存の村の支援制度といたしまして、繰り返しになりますけれども、地域資源を活用した特産品の開発に対する補助金の交付という制度がございますので、まずはそちらを活用していただく。また、そういったものを広く拡充していくためには、村の方としてセミナーみたいなものを開催する、専門家を呼んで興味のある方にそういった話を聞いていただく、そういったソフト事業が考えられます。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

それでは、3点目です。3点目としてお聞きしたいのは、6月議会の中で村長が「昭和の時代に企業誘致において撤退されている」と答弁されました。過去の事例を踏まえて、今度は企業誘致に依存しない形で雇用を生み出していくというお考えを示されました。

これはとても重要な視点だと思っております。その際、村としてはどのような分野や業種での雇用創出を想定されているのか、具体的にお聞かせください。

また、地域経済の持続可能性を上げていくために、どのような手段で所得の向上や経済循環を実現していくのか、お考えをお聞かせください。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

正直、なかなか難しい課題だと考えております。

まず「どのような分野での雇用創出を考えているか」というご質問であります。

6月の一般質問でも申し上げましたとおり、本村の地理的、そしてまた気候的条件を考えると、雇用規模の大きい工場などの誘致は難しい、そういう状況にあるということを確認しております。そのうえで、本村の地域特性として考えられる分野とすれば、まずは農業が挙げられるだろうということで、農産物の生産に加えて、加工や販売までを一体的にやってもらうことで付加価値を高めて、若い世代にも魅力を感じられる農業経営のあり方というのが考えられると思います。

また、観光分野では体験型観光やスポーツ合宿など、滞在型観光の推進に加えて、空き家を活用した宿泊や飲食店の起業などによって新たな雇用が生まれる可能性が考えられると思っております。

また最近では、デジタルやAIを活用した新たな仕事が生まれております。これまで村の中では思い浮かばなかったような産業についても、創業支援などで柔軟に起業を支援していきたいと考えます。

そしてまた、働く場が飯山市、中野市、村外であっても、生活の拠点が村となるような住宅政策もこれからも必要と考えております。

これらの取組と併せて、村内企業や飲食店が抱える後継者対策を進めていくことで、より高い効果が得られるなどを考えております。

以上の取組を通して、地域資源に基づいた雇用の機会の創出が期待され、循環型で持続可能な地域経済の形成に繋がっていくものと考えております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

まず企業誘致のことですけれども、企業誘致をされたのが昭和の時代というふうにお聞きしました。それからもう結構長いこと経っていますので、また新たに企業誘致なり、小さな会社でもいいから木

島平村に会社を作っていたかどうか、そういうことはもうお考えにはならないということでしょうか。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

全く考えていないわけではありません。当然そういうものも必要だろうと思います。

その際には、やはり先ほど申し上げた、どういう分野の企業がここに来るのか、また、さっき申し上げましたとおり大規模というのはなかなか難しいだろうと思います。

木島平村そのものをより多く皆さんに知っていただくことによって、企業にも木島平村に関心を持っていただくというのが、まず入口になるのかなと思っております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

## 2. 観光から村民の福利厚生へ

### 3番 湯本行浩 議員

それでは、2項目目に移りたいと思います。

観光から村民の福利厚生への観光振興と住民福祉のバランスについてお伺いします。

本村においては、これまで観光振興を目的として、村外への情報発信や各種イベントなど様々な取組を行ってこられたことは承知しております。しかしながら現実として、これらの取組が大きな集客や経済効果に直結しているとは言いがたく、観光を地域活性化の主軸にすることには一定の限界があるのではないかと感じております。

もちろん、外に向けた村の魅力発信も大切ではありますが、それ以上に大切なのは、やはり村に暮らす人たちがこの村に住み続けたい、ここでの暮らしが心地よいと実感できるような環境を整えていくことだと考えています。そのような観点から2点についてお伺いいたします。

1点目です。観光にかけてこられた予算や人的資源を、今後は村民の皆さんの生活の質の向上、例えば地域内での交流の促進や高齢者・子育て世代を対象とした福祉施設の充実といった、より身近な暮らしの支援へと重点を移すことはできないか、お考えをお伺いします。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

まず最初に、様々な情報発信とかイベントが観光振興だけを目的にしているわけではありません。その中で農産物のPR、そしてまた、移住定住に向けた子育て環境など村そのものの魅力を発信していると考えております。

また、従来から村民生活の質の向上に向けた予算は多く配分しているつもりでおります。今年度から学校給食の無償化や、高齢者の交流促進と健康増進も目指してシニア世代団体活動補助金を始めました。

観光が主軸というか観光にかけていた予算というものを、どういう状況を想定されているのかちょっとわからない部分もありますが、観光にかけていた予算をどこかということではなくて、やはり今ご質問ありましたとおり、村民全体の福祉の向上のために必要な施策を全体の中で考えて、その中で、必要とされるところに予算と労力を配分していきたいと考えております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

外に向けた村の魅力発信というのは大切なことだと私も思っています。ですが、村民一人一人が安心して暮らせることが、結果的には地域への愛着や定住意欲にもつながり、長期的に見れば観光以上の効果を生む可能性があると考えますが、いかがでしょうか。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

当然そういう考え方でありますので、村の中で子育て支援、それからまた、高齢者の皆さんの健康づくり、コミュニティとか生きがいづくりとか、そういうものについては、村としてはかなり充実させてきていると考えております。

それ以上に必要なものがあれば、またご提案いただいた中でそれぞれ効果等を考えながら、一層、村民生活の向上に向けた取組を進めていきたいと考えております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

村民の生活の質を高める施策への村民の声やニーズを反映させる仕組みについて、もし具体策があれば教えていただきたい。

**議長（勝山 正）**

湯本総務課長。

**総務課長（湯本寿男）**

「村民の声やニーズを反映させる仕組み」でございます。

今現在ですけれども、村全体でいいますと、地区づくり懇談会というのを行っております。各地区におきましては、そういったお一人お一人の声というのもその場でお聞きするという場面はございます。

そのほかにつきましては、今ホームページの中でもいろんな声も聞けるということで、自由にメールでご意見をいただける場もございますので、そういったこともご活用いただければそちらの方で施策に反映できるように取り組んでいきたいと思っております。

それと、先ほどもお答えした中にありましたように、第7次総合振興計画の中でも、村民アンケートを実施しておりますので、そういった意見も計画に反映するとともに施策の方にも反映していきたいと思っております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

それでは、2点目です。ケヤキの森公園には、グラウンドやテニスコート、マレットゴルフ場、芝生公園など地域住民が利用できる施設が常に整備されております。こうした既存施設に加えて、例えば温浴施設や飲食スペースなどを併設することによって、村民の健康づくりや世代を超えた交流の場としての役割を果たすと同時に、近隣地域からの来訪者を呼び込む新たな賑わいの創出にも繋がるのではないかと考えます。

観光資源に限りがある本村においては、こうした地域住民の暮らしに根ざした施設を活用した相乗効果のある地域づくりが、結果として観光以上の活性化を生む可能性があるのではないのでしょうか。

そこで、ケヤキの森公園を含む既存施設を生かした複合施設の整備について、村としてどのようにお考えか、可能性の有無を含めて見解をお願いいたします。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

ケヤキの森公園であります。今年そこの中にある屋内運動場の人工芝化の事業を進めております。そのことによって、雨天のとき、それからまた冬期間など、これまで主にゲートボールの皆さんが活動していましたが、子供たちも様々な利用ができるようになるのかなと思っております。

ケヤキの森公園はスポーツを中心とした公園であります。芝生広場や河原など、村内外の利用者も含めて、親子連れなど家族がゆっくりと憩える公園でもあります。現在、軽食がとれる休息所がありますが、そこを新たな賑わいの場というより、健康づくり、仲間づくり、憩いの場として考えていきたいと思っております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

**3番 湯本行浩 議員**

先ほど言いました複合施設の整備についてですけれども、それは地域の暮らしに根ざした施設が観光的な役割も果たすのではないかと、暮らしと観光の融合は、今後の地域活性化の一つの方向性として十分に意義があるのではないのでしょうか。それを踏まえて、可能性の有無をお願いいたします。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

先ほど申し上げましたが、ケヤキの森公園につきましては、現在も村外からも保育園の子供たちが来ていますが、それは観光とは結びつかないと思います。ただ、スポーツの合宿等で村外からも多くの皆さんが来られている。それは観光に結び付いているのかなと思います。

そんなことで、先ほど申し上げました。ケヤキの森公園を健康づくりとかスポーツとかそれから憩いの場として、主には村の皆さんがそこで楽しんでいただく。そういう中身を充実することによって、結果として、村の皆さんが観光施設として活用する機会が増えることはいいのではないかと、そういうことはまたできるものはやっぱり観光に繋げていきたいと思っております。

**議長（勝山 正）**

湯本議員。

### 3番 湯本行浩 議員

本村にとって、他自治体の事例も参考にしながら、最も有効な形を見極めるためには、やはり住民の声を丁寧に反映することが重要だと思います。村民が意見を出し合えるような意見交換会の開催など、住民参加型で検討するというのを考えていただきたい。そういう考えはお持ちですか。

これは、例えば外に向かっての観光の誘致とかそういうものから内側を充実させるという、これは大転換になると思います。そこにやはり住民の声などを聞いて反映させる、そういうような場を、大転換は抜きにしても、やはり村民の声を十分に聞けるような場を持っていただきたい。それについて、これからお持ちになることはお考えですか。

### 議長（勝山 正）

本山産業課長。

### 産業課長（本山 等）

ただいま観光ビジョンの策定を進めております。観光ビジョンの策定に当たっては、村民から検討委員を公募いたしまして、12人の方に委員になっていただいて進めております。第1回目を8月18日に行いました。あと、年内に2回予定しております、その場で委員さんからそれぞれ意見をお伺いして、それを計画に反映することにしておりますので、村といたしましては、今年度につきましては、観光ビジョンの策定に向けて住民の声を聞くということで、検討委員の公募を行っておりますので、そういったことを既に実施しておりますので、ご承知いただければと思います。

### 議長（勝山 正）

湯本議員。

### 3番 湯本行浩 議員

私も検討委員の1人なんですけれども。

外に対する観光誘致とかそういうものは本当に必要だと思います。必要だと思うんですが、あまりにも成果が出てないのではないかと。ですから、今度、内側の充実はいかがですかということ、これは提案になってしまうかもしれません。だけれども、外から内という政策の転換はあり得るか否かをお答えください。

### 議長（勝山 正）

日基村長。

### 村長（日基正博）

政策の転換というより、基本的な考え方として、観光にしても農業にしても、そういう産業の振興とか施設の整備については、言ってみれば手段であります。最終的な目的は、やはり村民生活の向上でありますので、従来から最終的な目的はそちらにありますので、大転換というよりも元々そういうものだと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### 議長（勝山 正）

以上で、湯本行浩議員の質問は終わります。

（終了 午前11時24分）

### 議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前 11 時 35 分とします。

(休憩 午前 11 時 24 分)